

一般社団法人 千葉県訪問看護ステーション協会 広報誌

葉の花



INDEX

- ◇総会報告等-----1～2
- ◇協会活動報告----3～5
- ◇特集【災害に備える】
 - ・台風被災の報告-6～9
(千葉市,鋸南町,香取市)
 - ・地域マップの作成の
取り組み-----10
- ◇協会案内・編集後記-11

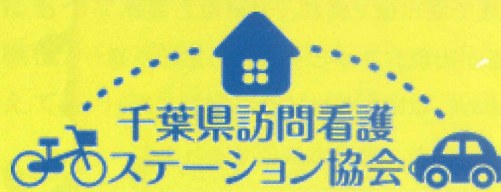
表紙の絵……竹澤 仁志

第19号

【発行日】令和2年7月6日

【発行所】一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会

【発行責任者】山崎 潤子



令和2年度定期総会報告および役員交代についてのお知らせ

一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会の令和2年度定期総会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため書面議決にて開催し、すべての議案が可決されました。今年度は役員交代の年となり、権平くみ子会長が退任されました。権平会長には、連絡協議会の時代から10年以上を務めていただいたき、特に法人化に関しては、多大なるご尽力をいただきました。退任にあたり、メッセージをお寄せいただきました。

退任のごあいさつ

前会長 権平 くみ子

皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜りましてありがとうございます。

梅雨の季節で、紫陽花が雨によく似合う季節になりました。今年は、世界レベルの新型コロナウイルス感染症とやっかいなことになっています。皆様ももちろん初めての経験だと思います。体調は崩していませんか。グローバル化した現代、世界のどこかでこのような感染症が発生すると、対岸の出来事ではなくなります。ましてやウイルスとなると、目に見えない驚異と先が見えない不安があります。そんな中でも訪問看護を待っている方がいる限り、行かないわけにはいきません。医療従事者の使命感だけではない。何かがあるのだと思います。私の体験で感じたことは、「私は人が好きなんだ」と言うことです。特に看取りで、「人は特別なことをするのではなく、淡々と毎日の生活をしている。お金がなくとも、余命が迫っていても、体が思うように動かなくとも、誰と比べるのでなく、自分なりに生きている」一生懸命に生きている素晴らしさを感じることができたと思います。

新型コロナウイルスの薬ができるまで、まだ時間がかかりそうです。新しい生活様式、3密（密閉空間・密集場所・密接場面）を今しばらく守り、ウイルスとうまく共存していかないといけないと専門家も言っています。今しばらく辛抱ですね。ピンチはチャンスです。会員の連携と団結で力を何倍にもできます。頑張りましょうね。

私事ですが令和2年3月31日で、ちば訪問看護ステーションを退職致しました。在職中は皆様には大変お世話になりました。訪問看護を15年間やらせてもらいました。訪問看護を初めてまだ不慣れな5年目で、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会の会長を受けました。こんな私が会長をやってこられたのは、ひとえに皆様のご協力があったからと感謝しております。私は訪問看護師をやってよかったと思っています。在宅看護の奥の深さや、制度との狭間の憤り、いろんな

生き方と人生に触れての感動、同業者との達成感など、いろんなことを学びました。今は千葉市住宅供給公社で違う角度で在宅とかかわっています。最後に、当協会は令和2年度で27年目を迎えます。次期会長の山崎潤子さん（緑が丘訪問看護ステーション）と一丸となり、さらなるステーション協会の発展と活躍を祈願しております。今後とも当協会をよろしく願いいたします。

表紙の絵の作者：竹澤仁志さん（訪問看護利用者）より一言

「32歳で脳出血で倒れ、右麻痺と視野障害が出現。リハビリのために絵を習い始め、以降絵を描くことが楽しみとなり、また、世界を広げてくれました。」



令和2年度の新役員紹介

	役職	氏名	会員番号	ステーション名
理事	会長	山崎 潤子	チー11	緑が丘訪問看護ステーション
	副会長	高橋 喜美	チー2	しらはた訪問看護ステーション
	副会長	山藤 響子	ナー19	大和田訪問看護ステーション
	副会長	小宮山 日登美	チー38	訪問看護ステーションひとみ
	副会長	福島 一美	サー27	コープみらい四街道訪問看護ステーション
	千葉市	鈴木 真寿美	チー12	訪問看護ステーション加曾利
	東葛北部	杉山 数穂	ホー13	南柏訪問看護ステーション
	東葛南部	高澤 康子	ナー26	総合リハビリ訪問看護ステーション
	香取・海匝	濱崎 祐美	カー15	ニチイケアセンター北佐原訪問看護ステーション
	印旛・山武	荻巣 美恵子	サー23	セントケア訪問看護ステーション佐倉
	夷隅・長生・市原	夏目 昌信	イー11	訪問看護ステーションわたぼうし
	安房・君津	門屋 千鶴	アー21	訪問看護ステーションわくわく
監事		長谷川 芳代	チー18	まくはり訪問看護ステーション OB
		吉江 悟	ホー61	訪問看護ステーション ビュートゾルフ柏

新任ごあいさつ

会長 山崎 潤子

令和2年の定期総会にて、一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会の会長に就任いたしました。平成6年に任意団体として設立された「千葉県訪問看護ステーション連絡協議会」は、平成29年に「一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会」として新たに生まれ変わりました。訪問看護の制度が始まったばかりの頃の先駆者の方々が紡いできた連絡協議会・協会の歴史の重みをしっかりと受け止めながら、令和の時代の新しい協会を作っていければと考えております。引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

今年は過去に類を見ない新型コロナウイルス感染症の流行という危機にも見舞われました。防護資材が少ない中、在宅療養者の生命を守り、自らの生命も守るという課題に、訪問看護師ならではの専門的知識と柔軟な発想力で、何とか乗り越えようとしている会員の皆様に敬意を表します。協会としても訪問看護師を守り、ひいては在宅療養者・県民を守るための努力を続けていきたいと考えているところです。

また協会運営に関しましては、会議・研修会等も例年のような集合研修の開催は難しい状況です。オンラインによる開催や、これまでFAXに頼ることの多かった情報発信をICT化していくことを検討しています。これらは、災害時の連絡体制の構築にもつながるものと考えています。

千葉県の訪問看護師の職能団体として、行政や地域、他職種からの要請にもお応えできるよう、当協会の役員一同力を合わせて、活動してまいりたいと考えております。今後とも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成 31 (令和元) 年度協会活動 (教育部会) 報告

教育部会担当 山藤響子

教育部会では会員みなさまに満足度の高い研修の提供を目指して、企画運営させていただいております。「明日からまた訪問看護のお仕事を頑張ろう!」と思えるようなコンセプトで取り組みましたがいかがでしたでしょうか? 令和元年度の5つの研修と事例報告会について振り返ってみます。

■始めてみよう、精神科訪問看護

令和元年 5月18日 (土) 千葉市総合保健医療センター5階
一般社団法人 日本精神科看護協会業務執行理事 仲野 栄 先生

千葉県は精神病床が多いもののステーションとして精神科訪問看護を行っているステーションが少ないこともあり、啓蒙普及も含めて仲野先生から精神科訪問看護の醍醐味や必要性、対応のエッセンスなどをお話いただきました。

精神科訪問看護は一定の条件をクリアしないと算定が出来ない仕組みになっていることもあり、敷居が高いものとなっているかもしれませんが、この講演のあと、新たに精神科訪問看護をスタートしたステーションが増えうれしく思っています。



■訪問看護師が地域において実践する ACP

令和元年 7月27日 (土) ちば訪問看護ステーション2階
船橋市在宅医療拠点 ふなぼーと 訪問看護認定看護師 佐々木ゆかり 先生



前年度企画しておりましたが悪天候のため延期となり、ようやく今年度実施することが出来ました。「訪問看護」「地域」「意思決定」というキーワードでフロアともディスカッションする形で研修を行いました。大変興味深い内容で、事例を用いて意思決定支援を考えたり、訪問看護というフィールドでの一考察を行ったり有意義な研修でした。時間の都合上できなかった「もしバナゲーム (iACPより出版)」を何かの折に実践したいと思いました。



■訪問看護領域におけるハラスメントについて

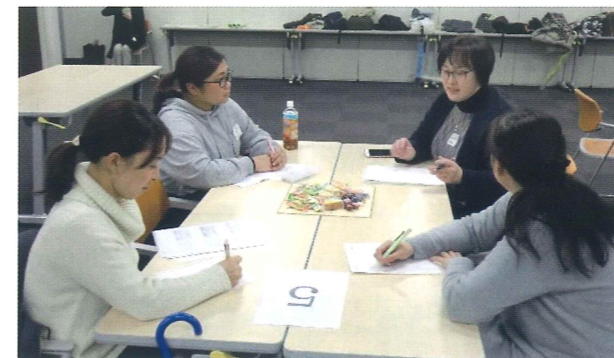
令和元年 12月7日 (土) 船橋市保健福祉センター 大会議室
株式会社円グループ 訪問看護ステーション卵 所長 田嶋佐知子 先生

三木明子先生監修・著の「暴力・ハラスメントの予防と対応」のテキストを使用し、訪問看護領域のハラスメントについて学びを深めました。この研修も時間が足りず、ロールプレイまでは出来ませんでした。アンケート結果から続編を熱望する声が多かったためまた検討していければと思いました。新人看護師の事例を用いたグループワークは大変盛り上がりしました。「二次被害」という言葉も含めてハラスメントについて大変考えさせられた研修でした。



■新任管理者研修

令和元年 12月7日 (土) 船橋市保健福祉センター 大会議室
大和田訪問看護ステーション 所長 山藤響子 先生
訪問看護ステーションひとみ 所長 小宮山日登美 先生



以前から新任管理者に特化した研修をしてほしいという要望にお応えし、管理者歴3年未満を対象に研修を行いました。研修講師は当協会副会長の2名で行いました。グルーピングを地区部会毎とし、顔の見える関係作りを意識して行いました。それぞれの参加者が思いの丈を語り、ディスカッションできたので大変満足度の高い内容となりました。教育部会としては新任管理者研修を定期的

的に開催していきたいと考えています。

■ひきこもりシンポジウム

令和2年 2月15日 (土) 千葉市総合保健医療センター4階
①訪問看護の立場から・・・大和田訪問看護ステーション 看護師 山藤響子氏
②ひきこもり当事者の立場から・・・同上 ピアスタッフ兼医療事務 田中恭平氏
③家族の立場から・・・八千代市 新谷早百合氏
④行政の立場から・・・千葉市ひきこもり地域支援センター 牛岡佐知代氏

事例報告会と抱き合わせの研修ということで、今年度はシンポジウム形式での企画をしました。ひきこもり支援に関して一つの流れがわかるように、今回は大和田訪問看護ステーションの関係者にシンポジストとして語っていただき、最後に行政の立場から千葉市ひきこもり地域支援センターの牛岡先生に千葉県のひきこもり支援の現状や動向などをおはなしいただきました。質疑応答もとてもたくさんの質問があり、シンポジウム終了後も質問が続くほどでした。意外と身近にいる「ひきこもり」当事者について考える貴重な機会となりました。



■事例報告会 【テーマ：8050問題について考える】

令和2年2月15日（土） 千葉市総合保健医療センター4階

今年度で9回目の開催となる事例報告会ですが、各地区部会から報告をしていただきました。一つ一つの事例から訪問看護師としての苦悩や努力、行政との連携など訪問看護の醍醐味がたくさん詰まった報告会となりました。

千葉大学大学院看護学研究科准教授の辻村真由子先生に事例の講評をおこなっていただきました。一つ一つの事例を丁寧に聞いてくださり、さらに看護の質を高めることができるエッセンスもたくさんいただきました。

<発表者のみなさま> (発表順、敬称略)

1. 千葉市地区 ハルミ訪問看護ステーション 物部 豊子
2. 東葛北部地区 たんぼぼ訪問看護ステーション本部 廣瀬 由芳
3. 東葛南部地区 ロータス訪問看護ステーション 竹縄 佳子
4. 香取海匝地区 訪問看護ステーション HEART 森末 裕稀
5. 印旛山武地区 訪問看護ステーションわらび 安藤 綾子
6. 夷隅長生市原地区 やすらぎの郷訪問看護ステーション 岡嶋 恵子
7. 安房君津地区 すまいるリハ訪問看護ステーション 岩部 紀子

貴重な報告ありがとうございました。



令和元年度にふさわしい内容の濃い研修を行うことが出来ました。次年度も会員のみなさまが現場に活かせる内容の研修を多く提供したいと思います。みなさまから頂戴しておりますアンケートを参考に企画運営を行っていききたいと思います。

アナウンスが直前になってしまい、参加しなかったのでできなかったという声も頂戴しております。次年度は少しでも早く研修のアナウンスができますように教育部会でも努力していきたくと思っています。「精神科看護」「小児看護」などの専門性の高い訪問看護に関しても研修に組み込めたらと考えております。

より多くの会員様にご参加いただけるように研修は土曜日に開催させていただいております。次年度も多くの方のご参加を楽しみにしております。

特集～災害に備える～



令和元年度の千葉県は、9、10月に「台風15号」「19号」「21号に接近に伴う大雨」による災害に立て続けに見舞われました。観測史上第一位となる強風による建物被害や倒木等が多数発生し、長期間にわたる停電、断水・通信障害など、今までに経験のしたことのない被害があり、訪問看護の業務にも支障を来したところが多かったと思います。

現在流行が懸念されている「新型コロナウイルス感染症」についても、日頃からの備えの大切さを痛感しています。いつ起こるかかわからない災害に備えるため、被災した訪問看護ステーションからの報告を共有していきたいと思っています。また平時からの対策として「地域マップ」を作成している訪問看護ステーションからもご報告をいただきました。

千葉市での被災・・・・・・・・・・・・・・・・訪問看護ステーションひとみ 小宮山日登美

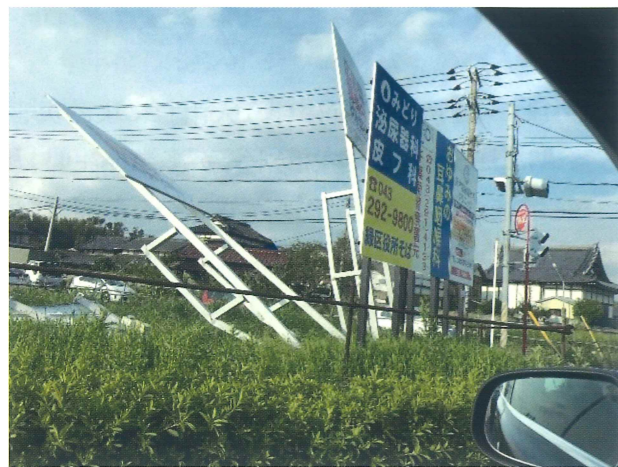
当事業所は、この2つの台風では、先に来た15号での被害が大きかった。停電と道路状況の混乱である。停電は11日の午前2時に回復し、2営業日停電で過ごした。1週間程度の間周囲の停電も順次回復したが、場所によっては10日要した所もあった。

停電やその他台風がもたらした被害によって、事業所に入れず、情報が見られない(PCや電子カルテ)、利用者様達の療養場所が不安定、道路状況がわからず危険、など対応に迫られた事を振り返る。

9月9日5時前に千葉市中央区付近に台風15号が上陸した。勢力を保ったまま関東に上陸するのは大変珍しいと聞いたが、当初は危機感が乏しかった。それでも明け方の激しい風雨に不安になった。訪問活動が少ない時間帯だったが救いだが、当番の職員が緊急で呼ばれたりしていないかと心配した。結果的には台風通過中も含めて緊急で呼ばれることはなかったが、呼ぶような状態でなかったともいえる。7時ごろには太陽も出てきた。事業所に早めに行くが、道路は停電し信号が所々ついていない。木々が散乱し、よけながらノロノロと走った。それでも車の量はいつも位あり、信号のついていない交差点でも混乱なく譲り合いながら進んでい



た。千葉市中央区にある事業所は一見被害がなさそうだったが、停電しておりシャッターがあかない。事業所のPCでスケジュール管理をしているので、早速今日の訪問スケジュールの調整に困った。スケジュール担当のリーダーを中心に、職員の記憶の中の情報で訪問を組みなおす。概ね予定されていた通りの訪問を組むが、医療機器を使用している方や独居などの安否を組み込んでいた。利用者様の連絡先は各職員に付与しているスマホと緊急当番用の冊子(紙ベース)で何とかあった。スマホを職員分整備していたのは大変助けになった。しかし、何とんでも各職員の記憶の中の「利用者ごとの状況を勘案した提案」が、一番の情報源となった。



次に車。訪問車のカギが所内にあるが取れない。これは自家用車を使用してもらおう事となった。車は手配できるが道路状況がわからない。行きたくない、という職員は出ないですんだが、途中で渋滞なり動けなくなったり、倒木があり通行できないなど、職員同士で道路情報を確認しあいながらスケジュールを調整していた。

利用者様達は、医療機器を使用している方々が療養場所に困窮した。皆さん電源を複数必要とされる方々で、しかもそのような方は体温調整が外気温に影響されやすく、暑さ対策も課題となった。発電機をお持ちの方も多いが、医療機器は賄えてもエアコンの使用ができない為、避難されていた。また、復旧の見込みが立たないのは在宅療養を難しくした。ここまで、と予測がつけば避難せずに在宅で乗り切りたいと思う方は多い。移動も大変だし生活に必要な機材が多すぎるからだ。人工呼吸器、吸引機、経管栄養、排せつに係る物品、それらを洗ったり保管したり数え上げればきりが無い。また、不慣れな場所では本人も介護者も体調も崩しやすい。見込みが立たない状態で「ぎりぎりまで在宅」はリスクが高すぎて、避難せざるを得ない。避難するとしても行き先探しも困窮されていた。頼みの綱の病院も、今回は病院も被災(停電)したので受け入れが困難だった。避難所は対応が分かれた。別室を用意してくれた所、対応困難な所があった。後に聞いたが、避難所の運営判断もその長による違いがあるらしい。

被災していない訪問介護事業所が事業所を開放してくれ、そこに避難した方もいた。このような利用者様間の情報共有は、介護者の方々の強固なネットワークで成り立っていた。私たち訪問看護師は、利用者様や関係機関と連絡を取りながら避難場所に訪問看護を届けた。

事業所のシャッターは停電の途中で手動で開けたが、PCの情報が使えないのは持続した。ノートPCは使えるのだが、情報が外部のHDDにあり、これが開けなかったのだ。情報管理方法の再考とバックアップの方法が課題として残り、その他さまざまな課題が見えた。

台風15号で停電と交通についての困難が浮き彫りになったが、その後の台風19号では危機管理の面で、「どこまで訪問看護で支援したらよいか、職員に待機を指示するタイミングは」などの危機管理対応に、より悩んだ。

今まで、「訪問看護事業所における災害時の事業継続計画」と聞いても具体的なイメージがわからなかったが、今回の台風被害で「こういう事なのか」と解った。しかし、事業所や利用者様の個別性もあり、事業継続計画は画一的なものでは賄えないとも解った。

災害時は、物理的な被害とともに、職員や利用者様の気持ちも配慮しなければいけない。何もかも足りない・困っている状況で、私たちはどう動けばよいかを、現実的に考えるきっかけとなった



(屋根だけでなく、手前のブロック塀も倒壊)

鋸南町での被災・・・・・・・・・・・・・・・・鋸南町訪問看護ステーション 上野由美子

鋸南町は、鋸山の南に位置しているのが名付けられた町です。令和元年の台風15号(令和元年房総半島台風)は、町全体の大規模被災となりました。事前情報はありましたが「今まで大丈夫だったから、今回も大丈夫だろう。」という気持ちでいました。9月8日22時頃から雨風が強くなり深夜がピーク、明るくなってから外を見ると昨日とは違った風景、変わり果てた町の姿でした。停電・倒木・通信障害・断水・・・、ボランティア・支援物資が届き始めたのは3日後です。訪問看護師ではなく、町職員として町内一軒一軒安否確認の訪問を行いました。日赤・DMAT・県外保健師・マスコミ等・・・数ヶ月ごった返していました。今回被災者となり、予測される防災は家庭の状況を知っている私たちが個々の家庭に合わせた声掛けをしていかなければならないと感じました。現在、ブルーシートの数は少なくなりましたが更地が増え、人口は減っています。役場では復興支援室が設けられ、ボランティア活動も続いている状況です。これからも“頑張んべー!!”と思っております。



(まだ屋根のブルーシートが残っています)



「山あり 川あり 海あり 困った事だらけ」

2019年の台風15号19号は本当に大変でした。香取、海匝地区でも他の地域と同様に停電などをはじめありとあらゆることに苦労をしました。地区的に、山あり、川あり、海ありのところでもあります。こちらでは停電、断水、こちらでは倒木によって通行が不可、道路一つ挟んで各家庭での困難状況が違ってたりもしました。どのように対応したら良いのか、スタッフの勤務も含め、どのステーションも大変だったと思います。少し時間をおいてから、全地区対象ではありませんでしたが、意見交換会や勉強会を開いています。HOTの会社の方をお招きしての勉強会、ベッド、マットの会社の方をお招きしての勉強会、認定ナースによるステーションでの実際の行動の仕方や、患者情報の利用の仕方から、その帳票の作り方など教わっています。

ベッドや酸素などはどこの地区でも困ったことのトップの内容だったかと。ある地区では停電が直ったので大丈夫だわ、と思っていたらその家の電線だけ切れており、ご近所は1日で電気が来たのに3日も遅れてしまい、電動ベッドがアップされたままで過ごされてしまった、エアーマットの空気が抜けてしまい、皮膚トラブルを起こしてしまった、自家発電をたいていた家もあったが、ガソリン供給に四苦八苦してしまった、など色々な困ったがでてきました。

暑さもあり、電気が来ないので、緊急ショートや入院をされた方も少なく、施設を探すのもケアマネさんと連絡を取り合いながらの大変でした。でもその施設が停電だと電話連絡ができない、緊急な用件も伝えられない、

携帯電話での連絡もできない、いまさらながら、電気にこれだけ頼って生活をしていることに痛感しました。その後のサービス時にお宅で電気は大事だねとか、電気が無ければ生活ができないねと聞きます。

それと河川地区での増水による被害もありました。浸水などでもっと甚大な被害地区がありましたが、前日は天候もよく、夕方になってハザードが発令されて、避難勧告指示の出た地区の方は避難所に行かれたりして、大変騒動でもありました。寝たきり要介護5の家族を残して避難するわけにもいかず、家族総出でおんぶをして車に乗せたところもあります。また、生まれた時から住んでるんだ、だいじょうぶなのは自分が知っていると家族や消防や警察から誘導されても、避難をせずこわごとと一夜を過ごしたり、また普段は車椅子移動の方が垂直避難をしたはいいものの、翌日階段から下りられず、スタッフ総出で2階から降ろしたり、避難所では中には入れず、駐車場で結局車で過ごされたり、硬いところに寝かされて痛みが出たり。でも翌日、ハザードの危険地区の方が無事であったので良かったです。

それと備蓄に対しても、意見が出ていました。懐中電気や水の確保などしておかなければと、現在コロナウイルスでも備蓄の重大さを痛感しているところです。



近年、台風やゲリラ豪雨などの自然災害が多く見られる中、防災や減災対策の意識の向上が欠かせなくなってきました。皆様の事業所でも様々な災害対策をしているかと思います。

当ステーションでは、災害対策の一つとして地域マップを作成し活用しています。地域マップはもともと災害対策用に作成したものではなく、私が管理者となった際に、効率よく安全に回るためのスケジュール管理をする為、また地域を知る為に作成しました。その為、現在使用している地域マップは、千葉市自転車走りやすさマップを土台にし、利用者宅や連携機関先である病院や診療所、居宅介護支援事業所、地域包括などの場所を印しています。

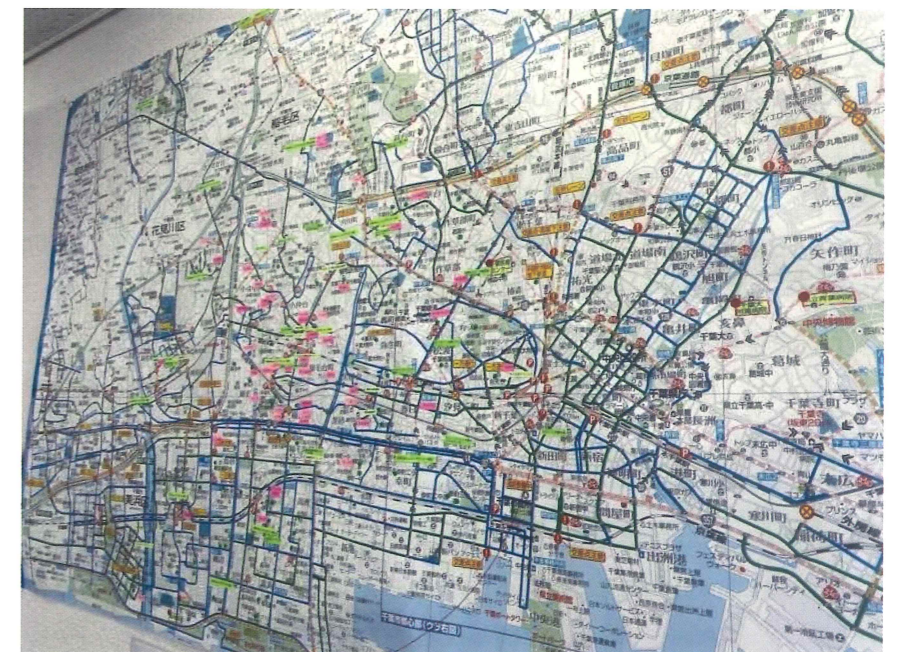
そこに、2018年の西日本豪雨があったのをきっかけに、自分達の地域のどこに、どんな在宅医療にかかわる機能を持った資源があるかを調べ、地域資源も地域マップに入れ込みました。地域資源には各区の保健センターや、災害拠点病院、地域医療支援病院や在宅療養後方支援病院、避難所等があります。これらの資源と、津波や土砂災害、浸水などが予測される場所も入れ込み、出来たのが現在の地域マップで、事業所独自の特性を入れ込んだハザードマップというところでしょうか。

災害時の危険な場所を地域マップに記すことで、危険な場所を知るだけでなく、災害後の訪問時にも、どの道を通れば安全に訪問できるかを考えることができます。実際昨年度の台風では、事前にどんな規模の

台風か予測がついた為、台風接近前に利用者と避難場所の確認を行いました。スタッフ自身が地域マップで地域を把握する事で、避難時にはどこにどのように行けばいいの事を事前に利用者と相談することができました。

訪問看護ステーションの利用者は、小児から高齢者まで幅広く、特に寝たきりのお年寄りや、障害があり介助が必要な方が多く、災害発生時には、ステーションとしてスタッフや利用者を守る為の体制を整えておく必要があります。事業所が災害発生時に被害をできる限り最小限にできるよう、事前に減災対策と災害発生時のステーションとしての対策を考えておく事が大切です。

自分達の地域にどんな特性の資源があるか、正しい情報を集め、避難場所や危険な場所を事前に知っておく事で減災にも繋がると思います。ぜひ、事業所独自のハザードマップを作成し、災害対策に役立てていただければと思います。



(壁に貼られたマップ)



千葉県訪問看護ステーション協会に入会しませんか？

令和元年度理事 岡嶋恵子

令和元年は台風被害に、令和2年には新型コロナウイルスと訪問看護業務にも支障をきたす事態が起きています。このようなときに近隣の訪問看護ステーションとの繋がりが、訪問看護ステーション協会の情報発信が業務遂行の励みと相談窓口となります。個々の訪問看護ステーションからの声は届かなくても、協会として行政や各機関へアピールすることができます。このようなことが訪問看護ステーション協会のメリットではないでしょうか。

【協会理念】

訪問看護ステーションの経営、サービスの質の確保、向上を図ることにより、訪問看護事業の健全な発展を推進し、県民の健康福祉向上に努める

【活動内容】

県全体の活動と地区部会での活動があります。各地域での課題をより具体的に捉えるために、県内を7つの地区部（千葉市、東葛北部、東葛南部、香取・海匝、印旛・山武、夷隅・長生・市原、安房・君津）に分けて、地域での繋がりを深めています。

具体的には、「総会」「地区部会会議」「訪問看護の質の向上のための講演会・研修会」「訪問看護理解促進のPR事業」「看護協会との連携会議参加、各モデル事業への参加」「各団体への会議参加や問題提起など」「地区部会や会員訪問看護ステーションからの各種要請に対し支援」「ホームページより必要な情報や各種必要用紙がダウンロード出来る」等があります。

【入会方法】

当協会ホームページの「入会を希望される方へ」をご参照ください。



会員の皆様のご理解と協会への参加をお願いいたします。

編集後記

今回の「菜の花」はいかがでしたか？台風災害を特集してみました。が発刊される現在は、コロナウイルス対策に翻弄されています。当たり前の日常のありがたみを感じつつ、いつやってくるかわからない災害への備えをしていきたいと思えます。災害についての参考図書としては、「訪問看護ステーションの災害対策（全国訪問看護事業協会編）」がお勧めです。実践的な内容で、自事業所のマニュアル作りの参考になると思えます。

今回の役員交代にて、このメンバーでの広報誌編集は最後となります。今年は発刊が遅れまして、大変申し訳ありませんでした。新しい役員が作る次号広報誌も楽しみにしていてください。
(広報部会：岡嶋、濱崎、山崎)

一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会 <http://www.chiba-houkan.gr.jp/>

【事務局】 千葉市稲毛区宮野木町 1752-15 緑が丘訪問看護ステーション内

電話 070-4106-8738 (平日9~17時) FAX 03-6682-4171